

主要都市間の移動時間が約半分

- 東九州自動車道が北九州から繋がり、北部九州のミッシングリンクが解消されます。
- 北九州市から大分市間や、北九州市から宮崎市間の所要時間が、高速道路未整備時と比べて約半分の時間に短縮されます。
- 福岡、北九州、大分都市圏の連携軸が強化され、更に東九州域を中心に地域交流が活発になることが期待されます。

	未整備(S63) 【国道10号経由】	開通後	短縮時間
北九州市～大分市間	3時間20分	1時間45分	1時間35分
大分市～宮崎市間	5時間25分	2時間50分	2時間35分
北九州市～宮崎市間	8時間45分	4時間20分	4時間25分

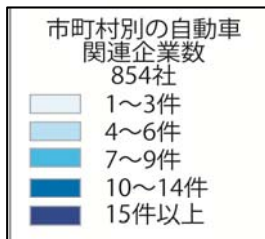


注1)未整備時(S63)の所要時間は、昭和63年道路交通センサス混雑時旅行速度データより算出。
 2)開通前・今回開通後の所要時間は、H26年4月～8月のプローブデータの平日・混雑時平均旅行速度より算出。
 東九州道の既存区間は上記期間のプローブデータで算出。新設開通区間は指定最高速度(想定)より算出。

北部九州との取引企業が拡大

- 九州は「カーアイランド」と呼ばれることが多く、中でも北部九州においては福岡県を中心に「北部九州自動車産業アジア先進拠点推進構想」を推進し、アジアをリードする次世代自動車を含めた一大生産拠点到成長しています。
- 自動車メーカー各社は、生産拠点から開発・生産拠点への成長を目指し、自動車開発拠点を新設を進めています。九州内での自動車開発の開始により、エンジン等精密部品の新たな地元調達期待され、更なる拠点化が期待されます。
- 東九州自動車道の整備とともに、宮崎県の地元企業への取引も開始し、今後更なる取引の拡大が期待されます。

■1975年度(昭和50年度)

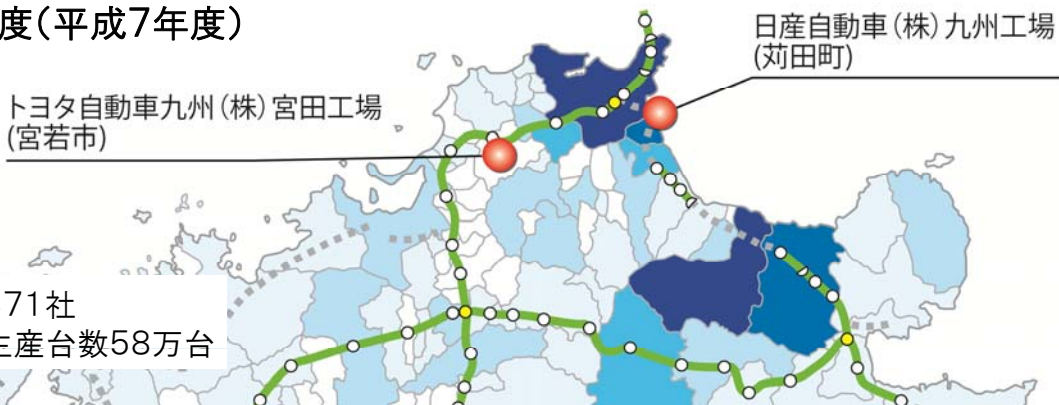


- ・企業数65社
- ・九州における自動車生産開始



■1995年度(平成7年度)

- ・企業数371社
- ・自動車生産台数58万台



■2014年度(平成26年度)

- トヨタ自動車九州(株) 苅田工場・小倉工場 (苅田町・北九州市)
 - トヨタ自動車九州(株) 宮田工場 (宮若市) (2016年 開発棟新設予定)
 - 日産自動車(株) 九州工場 (苅田町)
 - 日産車体九州(株) (苅田町)
 - ダイハツ九州(株) 大分工場 (中津市)
 - ダイハツ九州(株) 久留米工場 (久留米市) (ダイハツ工業(株) 2015年 開発センター開設)
- 今回開通区間
- 【宮崎県商工観光労働部産業振興課(宮崎県自動車フロンティアオフィス事務所)】

資料：S50年度・H7年度 (九州経済調査協会)
九州・山口の自動車関連部品工場一覧2010
H26年度 (九州自動車・二輪車産業振興会議)
九州自動車関連企業データベース(H26年度)

・東九州開通を契機に豊前市に宮崎県自動車産業北部九州フロンティアオフィスを設置、地元企業へのメーカーとの商談会を支援し、北部九州の自動車産業への県内企業参加をサポートしており、現在4社について新たに取引が始まっている。

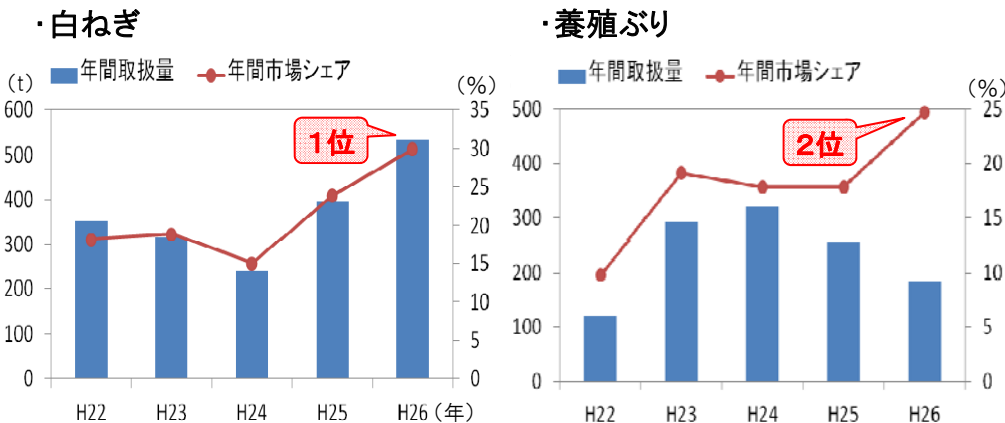
農水産物の市場占有率が増加

- 東九州自動車道沿線地域は農水産物が豊かで、大阪府中央卸売市場における大分県産の白ねぎや養殖ぶり等のシェア率が増加しています。
- 東九州自動車道の整備により、定時性の確保・荷傷みの低減等に伴い更なる市場の拡大が期待されます。

■ 大分県産の農水産物



■ 大分県産の大阪府中央卸売市場におけるシェア



【運送会社の声】

- ・水産物(生鮮品)は、市場の開始前に届くことが最も重要です。東九州道開通により移動時間が短縮されたほか、一般道の渋滞を回避でき定時性が向上しました。
- ・北九州方面への出荷の際は、開通すれば、最寄りICからの利用が可能となり、更なる定時性の向上が図られます。

高速バスの新設による交流の活性化

- 東九州道の開通により、東九州軸に新たな高速バスが新設しています。
(北九州～大分間で9往復、大分～宮崎間で6往復運行)
- 新たな交通機関の誕生により、更なる交流の活性化が期待されます。



『北九州～別府・大分線』

- 【運行開始】平成27年3月7日
- 【運行便数】9往復/日
- 【所要時間】小倉駅前～別府北浜:約2時間6分
(最速) 小倉駅前～大分キハ前:約2時間21分

『宮崎・延岡～大分・別府線』

- 【運行開始】平成27年4月1日
- 【運行便数】6往復/日
- 【所要時間】別府北浜～宮崎駅:約3時間45分
(最速) 大分キハ前～宮崎駅:約3時間25分
別府北浜～延岡IC:約2時間11分
大分キハ前～延岡IC:約1時間51分



<出発式の様子(H27.4.1 宮交シティバスター)>

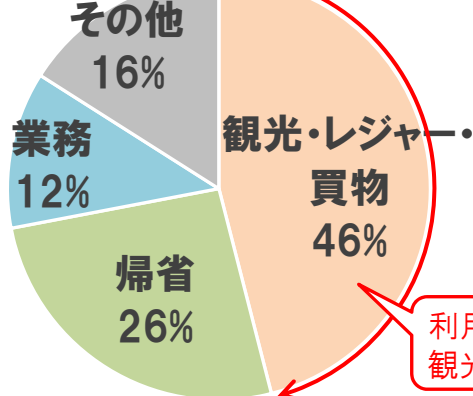
高速バス事業者の声 (西鉄バス北九州(株))



東九州道を活用した高速バス新設に伴い、北九州～大分間の観光・レジャーやビジネスで多くのお客様に利用していただけることを期待しています。

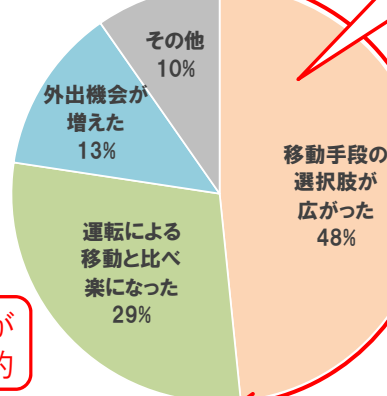
■ 高速バス利用目的等

・利用目的



利用者の約半数が観光・レジャー目的

・便利になった点



高速バスが新設され、交通手段が多様化

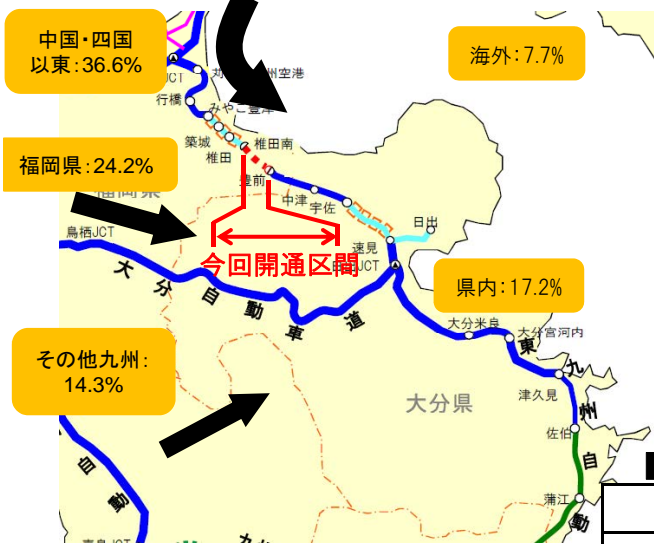
調査箇所: 大分キハ前バス停、宮崎駅バスセンター

資料: 利用者アンケート調査結果(H27.8)

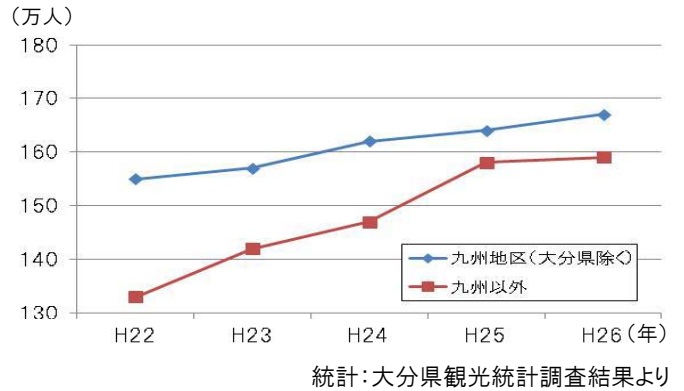
地域観光の活性化

- 大分県の観光客数の約8割が県外からとなっており、そのうち観光客の交通手段は約8割が自家用車・観光バス・レンタカー等になっています。
また、大分県外からの観光客の宿泊客数が年々増加傾向となっている。
- 大分県北部8市町村からなる、『豊の国千年ロマン観光圏』へのアクセスが向上し、観光客の増加が期待されます。

■大分県の発地別宿泊客数比



■大分県外からの宿泊客数



■大分県観光客の交通手段

	自家用車	観光バス	レンタカー	その他
大分県までの交通手段	71.6%	7.3%	5.2%	23.7%
大分県内の交通手段	79.9%	5.6%	5.9%	2.1%

出典: 平成26年度大分県観光実態調査報告書より
※複数回答可。少数回答(路線バス・タクシー等)は省略

豊の国千年ロマン観光圏 ～別府・中津・宇佐・国東半島～

国東半島宇佐地域が世界農業遺産に認定 (H25.5)
※国東半島宇佐地域は、豊後高田市、杵築市、宇佐市、国東市、姫島村、日出町からなる。

東九州自動車道については、北九州、大分の都市圏を結ぶ東九州軸として、生活・文化・産業・観光等における多様な交流を促進する窓口になるものと考えられる。(『豊の国千年ロマン観光圏整備計画』より抜粋)

循環型ネットワークが完成

■東九州自動車道の整備により、福岡市と大分市間において2つのネットワークが形成されることとなり、災害及び事故による通行止めや交通集中による渋滞等が発生した場合、ルート選択が可能となり、より確実な輸送に寄与します。



※所要時間は、供用中区間は規制速度、東九州道(未供用区間)は、予想される規制速度70km/hで算出
 ※所要時間及び距離は、福岡IC⇄大分ICで算出

■事例紹介① 大分自動車道(日田～玖珠)における災害および事故



H16.5.16
 雨の影響で土砂崩れが発生し、下り線が
5時間19分通行止め



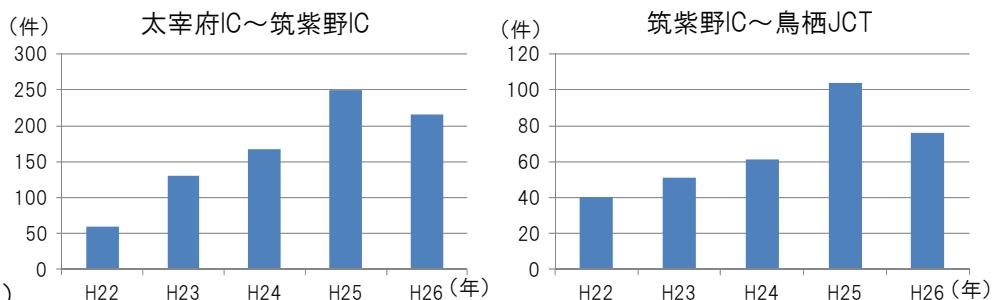
H25.3.11
 中央分離帯突破事故が発生し、上下線が
4時間14分通行止め

■事例紹介② 九州自動車道における交通集中渋滞



H26.1.30 太宰府IC～筑紫野IC(上り線)

■主要渋滞箇所における渋滞発生件数 (NEXCO調べ)



渋滞定義: 時速40km以下で低速走行、あるいは停止発進を繰り返す車列が1km以上かつ15分以上継続した状態を指します。